富山県南礪地方におけるウンカの発生分布

山　崎　秀　信
（富山県福光農業改良普及所）

富山県におけるウンカの発生は，例年の事例によつても，比較的山地に近い地方，とくに山にかこまれた小面積水田地区にその発祥をみ，逐次平坦地に向つて分布するもののようであるが，平坦地においてあまり大発生を行わないような年であつても，山間水田地区においては早期よりかなりの発生をみて，甚しい減収に至ることが多い。しかも，この地区は面積的にも極めて小さいので，それだけに農家に及ぼす影響は甚しいものがあり，その早期発見とその後の予察は極めて重要なものである。こうした悪環境に襲われる地方として，礪波郡の南部地方は従前より一般に知られているところである。この地方は，ウンカのみでなく，その他の病虫害が集積的に発生する地方であるような感が深い。イモチ病等においても，例年，いずれかの水田に極めて代表的な坪枯れ現象をみ，防除の徹底に腐心しつつある。ウンカのように，短期間において分布を急速にひろげる害虫については，当地方のように例発的なところに注目することは，全県的にも早期発見の基礎をあたえるものとして重要視すべきであろう，このような観点に立つて，ウンカの過去における発生を主とし，分布上から考察した2，3の点を報告して参考に供したい。まず発生の多かつた年の状況を見ることにしよう。昭和27年はトビイロウンカ・ヒメトビウンカ，セジロウンカ・イナヅマヨコバイ等の混発した年で，8月上旬から発生がはじまり，8月下旬～9月上旬にかけて大発生し，その発生面積は全地区 2,768町の内2,076町歩の多きに及んだ。29年は，トビイロウンカ・ヒメトビウンカ，セジロウンカ等の混発であつたが，8月中旬よりの発生で，発生面積は，180町歩あでつた。昭和30年はセジロウンカが主であり，発生面積は50町歩，31年はセジロウンカの単発で，7月下旬よりの発生で1,020町歩，32年はセジロウンカ・トビイロウンカの発生で8月上旬初発，9月上中旬に大発生し，その面積は，2,050町歩であつた。発生の様相からみると，何れの年に於ても7月下旬から8月上旬にかけて，山麓の入江地帯である小二又，糸谷，祖谷，館，坂本，高窪にセジロウンカの発生があり，それが，発生のもとになり，順次，平坦地へ発生して行くのが過去の状態であつて，昭和27年は，小二又，糸谷，高窪が初発であり，29年は，小二又，糸谷，30年は，坂本，小二又，31年は小二又，糸谷，坂本，32年は，小二又，糸谷，祖谷，坂本部落のある地点が初発となつている。したがつて初発のツボを調査することによつて発生を予想できるようである。また分布速度の速い年（昭27，32年）は大発生と見てよい様であつて，8月下旬から9月上旬の発生量の調査が防除の上に極めて重要な意義をもつものと思われる。

発生分布の詳細な調査によつて，完全な防除が期待されるのであつて，環境的に或は作物的に，或は耕種的にいろいろな問題もあるが，調査結果のまとめが出来ないので何れ又報告したい。

第1図　昭和32年ウンカの発生分布図